

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200077		
法人名	株式会社 ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームむつみ		
所在地	千葉県松戸市六実1-47-2		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果市町村受理日	平成26年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成26年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業者は、ケアネット徳洲会の理念を基に、ホーム独自の理念を作成・運営しております。本年度は「寄り添う介護・信頼しあえる仲間作り」を掲げ、全職員の目標としております。又、出来る事・やりたい事を支援する体制作り、残存能力を生かした「その人らしい生活」をして頂けるように支援しております。又、職員のケア力を高める為に、研修等にも力を入れております。地域密着を目指し、地域行事へ参加をしたり、ホームでの行事への参加をお誘いし、地域の方々に出来る事を継続し連携を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は医療系のケアネット徳州会で、24時間の医療サポート体制が敷かれ、利用者の意向に沿った支援が行われている。今年は昨年の利用者家族アンケート結果で改善できる項目について話し合い、施設長を中心に全職員が一丸となって改善に向け取り組んできた結果、ほとんどの項目で昨年以上の高い評価を得ることができた。コメントにも感謝とお褒めの言葉が多く寄せられている。懸案であったリフト浴も完備し、重度の方も安心して入浴を楽しめるようになった。この度、施設長が変わり、隣接の通所介護事業所の施設長が兼務することになったが、両者間の垣根を開放して、職員、利用者を含めての更なる交流に取り組もうとしており、今後の展開が楽しみなホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼及び、夕礼ではケアネット徳洲会の理念と、むつみの理念を唱和し、理念に基づくケアを行っている。	今年は理念を実践するためのスローガンとして「寄り添う介護、信頼しあえる仲間作り」を職員で話し合い、設定した。全体会議で、実践できているかどうかの振り返りも行い、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、包括支援センターの方・地域在住の民生委員も参加される。保育園児や小学生との交流、文化展への出展、防災訓練などには地域住民の方にご参加いただいている。	地域密着を目指し、設立直後に町内会に加入し、地域との交流も積極的に実施している。ハーモニカ演奏などのボランティア、実習生の受け入も行っている。地域を巻き込んでのエコキャップ運動も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事、地域ケア会議、町内会役員参加の小学校での懇談会へ参加し、地域の方との交流や施設のアピールをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。参加依頼・議事録は全てのご家族様へ送付しており、数多くのご意見を頂いている。又、意見をもとに実践している。	会議ではホームの活動実績、行事予定および事故、ヒヤリハットなどが報告される。それに対して、地域からの参加者も含めて、意見あるいは要望が活発に出されているのが、議事録から窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政及び包括支援センターとは、密に連絡を取っている。不明な事、手続きなどを不備のないように教えて頂いている。介護相談員は、月1回、入居者様の相談に見えている。	市の担当者とはホーム管理者会議、連絡会の時や相談したい問題がある時には相談できる関係を築いている。包括支援センター職員は毎回運営推進会議に参加しており、日常的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束を行わない方針である。入居者様の離脱等の事故防止の為、現在は玄関のみ施錠を行っている。	全体会議で身体拘束に関する研修を行ったり、外部の研修会に参加した職員が報告書を作成し、全体会議で発表し、理解を深めている。また日常でも、具体的に、どのような場面が身体拘束にあたるか細かく伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修に参加をし、全職員に共通理解を深めている。又、日頃のケア時に疑しい傷など見られた場合には直ちに報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用の入居者様があり、行政書士から学べる機会が来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず、ご家族様・入居者様に対し説明・納得をして頂いたうえで、契約を行っている。一部改定を行った時も同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を頂いたら、報告・話し合いをし、ケアプランに反映している。又、意向に沿えるように心がけている。意見箱の設置。	運営推進会議、食事会、訪問時を含めて、家族との面会時にしっかりと意見、要望を把握するよう努めている。出された意見・要望は面談ノートに記載され、職員間で共有し、検討され、サービスに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議は意見交換や事故報告書の共有、業務改善の話し合いの場である。	意見、提案を気軽に書ける話し合いノートが作られ、活用されている。全体会議には勤務の関係もあり、全員参加は難しいが、欠席者には議事録を回覧し、そこに意見を記載することで、意見が出せるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の、業務に関する担当を割り当て責任を持って勤められている。又、管理者は常に職員の意見に耳を傾け、コミュニケーション取るように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修を職員に提案し、受講出来るように声掛け・時間の調整を行っている。全体会議では研修報告、テーマを設けて内部研修を実施し、共通理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム協議会に加入し、2ヶ月に1回の定例会に参加している。今年も他のグループホームの見学を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活場所・他入居者様・職員とホームでの生活に、慣れて頂けるように、傾聴し不安を減らすように心掛けている。又、職員間において、情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに電話連絡をし、不安な点や、疑問点などに答えられる体制をとっている。又、面会時時は、入居者様を交え、近況報告をし、安心して頂けるように努めている。月1回、ご様子のお手紙を出してる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族様のアセスメントをし、それを基にカンファレンスにて話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来ることを共有し、その入居者様に合った仕事を、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの相談に対しても、傾聴している。又、イベントや外食会にも、ご家族様に参加して頂き、交流を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人・知人の方が面会に来られる方もおります。	外食やイベントには家族の参加も有り、以前からの絆を大事にしている。隣接するデイサービスへ朝夕の訪問が日課となり、新しい馴染みの関係が生まれている。身支度して出かける事で利用者の生き生とした表情が見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の生活歴・性格など把握しながら、声掛けして、散歩・買物など他入居者様と共に、出来る事を支援している。歩行が出来る方が減っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方への訪問や、面会を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様別に、担当職員を決めている。普段の生活や会話・表情などであらゆる場面から、情報を汲み取り、全職員で共有している。それを、ケアプランに反映している。	居室担当の職員は利用者と一緒に、布団干しや、衣類の整理に寄り添い、会話や表情、つぶやきの中に本人の思いを把握し、状況を記録している。記録は全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、情報提供書を基に把握し、些細な事項に対しても、全職員で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者から夜勤者への申し送りを、必ず行っている。又、個別申し送りシートに記入し、全職員が把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを基に、ケアプランに落としモニタリング・評価・見直しを行っている。3ヶ月毎に、ご家族様と面会もしくは電話で連絡を取り、意向を確認している。それを基に、計画書を作成・承認・更新・配布を行っている。	センター方式を使い一人ひとりの「心身の情報」を職員全体で把握している。カンファレンスをケアプランに落としモニタリング、評価、見直しを行っている。家族とは面会や電話で連絡を取り、意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とは別に、個別の記録表を活用している。その事により、全職員間で共有出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージを希望される方へ、紹介を行っている。又、月1回、美容師が訪問し、希望者にカットを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化展へ参加・消防署と連携して避難訓練・地域小学生との交流・保育園児との交流・こども110番登録・エコキャップ運動(7年目)など行っている。今年からは、使用済み切手を集めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医がおひとりにつき月2回往診に来られる。急変時に対しても、電話での対応、もしくは往診に来て下さる。24時間の対応を行っている。	在宅訪問医の診察が月2回、訪問看護週1回のバイタルチェックと、健康管理は充実し入居者の信頼は厚い。急患時はグループの千葉西総合病院の受け入れが有る。訪問歯科、口腔ケア、リハビリマッサージの診察も受けられる。	ノロウイルス感染対策のロールプレイを職員全員で経験している。これからも継続されることを期待したい
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同グループの訪問看護ステーションと契約をしている。訪問看護は週1回の訪問、入居者様の健康チェックや介護職では行うことが出来ない処置を行っていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同グループの総合病院と連携を図り、急変時のスムーズな受け入れ体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを実施している。看取りの方が出たら医師から教育を受けることのできる体制。看取りに関して勉強会・研修会を行い情報を共有している。	看取り指針を作成して同意を得ている。本人・家族の思いを尊重し、方向性を同じにしている。職員は看取りに関しての勉強会を在宅訪問医により受け、利用者にとって最善の支援が出来るよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元の消防署の方を講師として招き、救命救急訓練を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練・消火活動を実施。又、夜間帯・日勤帯を想定し、避難訓練を実施している。食品・日用品の備蓄を実施している。11/19外部研修へ参加予定。	消防署指導で年2回避難訓練、消火訓練が行われている。夜間想定訓練では2階からの避難を職員一人で経験をしている。非常食のアルファ米のお握りを利用者も握り、緊急時の食事を体験している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	使用禁止用語を貼りだし、職員同士注意できる環境にしている。又、接遇の研修会を開いている。	言葉使いには特に気遣い、人格を尊重した心地よい言葉を使う接遇を心掛けている。自然な言葉使いがホーム内で使われていて、和やかで明るい雰囲気が醸し出されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の生活に配慮し、自由に過ごして頂いている。又、こちらから、提案もさせて頂いている。レクリエーションの一貫としてその方のレベルに応じた教材を用いて学習をされることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る事・やりたい事を支援している。又、買物など、外出を希望される時は、職員と一緒に掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る入居者様は、ご自分で衣類を選べる環境を整えている。又、出来ない入居者様については、職員が季節・環境等に配慮しながら選び整えている。買い物を希望される入居者様と買い物に行く事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る入居者様と一緒に、料理を作ったり、片付け等を行っている。又、コミュニケーションの場となっている。	料理は陶器の小鉢やお皿に盛付けされ、和やかな会話の中で食事は摂られている。入居者には味付け、配膳、洗物等得意なことで台所に立てるよう支援している。いつまでも自分の口で食べる事ができるよう、嚥下リハビリ、口腔ケアに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて、食事量・形状を工夫し、チェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。又、入居者様、一人一人に合ったブラシを使用している。訪問歯科医の受診を行い、アドバイス・講習会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に応じた対応を行っている。基本はトイレでの排泄。1人1人の排泄パターンを把握し誘導を実施している。おむつの当て方研修を定期的に行っている。	排泄パターンを把握してトイレで座ることを習慣づけている。声掛けもそっと羞恥心やプライバシーに配慮している。状態により布パンツとパット、リハパンなど使用し、自立に向け支援している。トイレにはシャワが一設置されており、必要に応じ素早い対応が出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘や下痢のないようにしている。又、運動(体操)の時間を設け、実施している。個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂場は、1日解放している。入居者様に合わせ、朝・夕刻にも対応している。今年はリフト浴が出来るようになり、車いすの入居者様も、心地良く浴槽に入ることが出来るようになった。	個浴でお風呂は好きな時に入ることが出来る。朝湯の一番風呂を希望の方や、温まった体で安眠したい方と自由に入れていた。今年、リフト浴が設置され 車椅子の方も安心して湯船に入れる快適な入浴の支援が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は、各フロア1人で対応している。安心して休んで頂けるように、温度管理や居室の準備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の状態に応じて、医師と相談して、服薬の変更を行っている。変更時は、ご家族への説明・同意を得てから行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人のニーズに合わせて、支援している。イベント時には、ノンアルコールビールなどを提供している。皆様喜ばれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日は、散歩の支援を行っている。日用品の買物など、入居者様と一緒に掛けることもある。又、イベント時は、ご家族様にも参加して頂けるように声をかけている。	天候の良い日はウッドデッキで、日向ぼっこや体操で体を動かしている。車椅子の方も連れ立って梨畑へ行ったり、近所の方と挨拶を交わしている。回転ずしには、歩いて行かれる距離で、新鮮な魚を目当てに出かける事が多く、喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、施設長が行っている。買いたい物はお小遣いを利用し、職員と一緒に、買物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご友人や親戚からハガキ・手紙が届く入居者様もおられる。携帯電話をもたれている入居者様の居られ、定期的に連絡をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は入居者様の作品やイベント時の写真を飾っている。季節の作品を皆様と作り、飾るように心掛けている。	ゆったりとした明るいリビングでは地元文化祭に出品された多彩な作品が掲示され、入居者の個性が表れている。ウッドデッキは隣のデイサービスへ通じ、将棋を指しに通ったり、脳トレに出かけるなど入居者の楽しみが広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立されている方は、気の合う方を見つけ、お話をされている。又、仲間作りの声掛けなどを、職員が行う事もある。1人の時間も大切に、自由に生活出来るように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本、ご自宅で使用していた物を持って来て頂いている。又、ご家族様が、入居者様ご本人の居心地の良いスペースを作って下さる。作った作品を、居室に飾られている方もおられる。	南に面した居室は明るく暖かい。天気の良い日は職員と一緒に布団干しや掃除をして生活リズムを保つ工夫をしている。好みのカーテンや寝具の色は「自分の部屋」の愛着心になり、個性的で居心地良く生活できている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が、自由に生活出来るように、見守りの強化をしている。又、安全に配慮した、物の配置等にも、気を配っている。自分の家(部屋)と思って頂けるように、常に心掛けている。		